

令和7年度 成南中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率においては、全国と比較して6ポイント下回っていた。平均無回答率は5.3ポイント低かった。学習指導要領の内容ごとの平均正答率は、「知識及び技能」の領域の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国を9.7ポイント下回り課題が見られた。「思考力、判断力、表現力等」の領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」もすべてにおいて全国を下回っていた。問題形式については、記述式、選択式、短答式においてそれぞれ下回っている。

＜数学＞ 平均正答率においては、全国と比較して7.3ポイント下回っていた。平均無回答率は2.6ポイント低かった。学習指導要領の領域ごとの平均回答率は「数と式」で7.4ポイント、「図形」で5.9ポイント、「関数」で6ポイント、「データの活用」で9.3ポイント下回り課題が見られた。評価の観点ごとの平均回答率は「知識・技能」で6.9ポイント、「思考・判断・表現」で7.5ポイント下回った。問題形式については「選択式」で0.7ポイント、「短答式」で9.4ポイント、「記述式」で7.8ポイント下回った。

＜理科＞ 平均IRTスコアにおいて、全国と比較して50ポイント下回っており、IRTバンド5の割合が3.6ポイント、4の割合が7.1、3の割合が5.2、2の割合が-13.1、1の割合が-2.8であった。結果から、理科を得意とする生徒の割合が本校は全国に比べ低いことがわかった。また、問題別の正答率の分析から、実験結果をもとに自分で考えるような、思考力が必要となる問題の正答率が低いことも明らかになった。これらのことから、生徒が理科に関心をもち、実験の結果から論理的に思考することができる力を身につけることが本校の課題であると考ええる。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞ 書写や文法、本文中の情報を読み取る力がしっかり身についており、「思考力、判断力、表現力等」の領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての項目において全国平均を下回った。また、「知識及び技能」の領域の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低かった。文脈に即して漢字を正しく使い、事象や行為を表す語彙について理解することが課題である。漢字の小テストを継続して行い、語彙を覚えさせる取り組みを増やし、今後の学力の向上につなげていきたい。

＜数学＞ 「数と式」の領域で全国平均と7.4も下回った。数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力をつけていきたい。

＜理科＞ 授業において生徒が主体となって取り組める活動を取り入れ、自ら探求する姿勢を身につけさせる。また、実験の予想や結果、考察を記述する機会を増やし、論理的思考力を養っていきたい。更にグループワークを積極的に取り入れ、自分の考えを表現する力や深い思考力も伸ばしていきたいと考える。